



MOMASのとびら 化石発掘★簡単鑄造で古代の生き物をつくろう!

2020年2月8日(土) 埼玉県立近代美術館 創作室

講師: 矢花俊樹

埼玉県立近代美術館ではほぼ毎週土曜日、子どもから大人までを対象とする「MOMASのとびら」というイベントが行われています。2月8日(土)のMOMASのとびらでは、SMFのメンバーである矢花俊樹さんによる、「化石発掘★簡単鑄造で古代の生き物をつくろう!」と題したワークショップが開催されました。矢花さんは、金工作家でありながらワークショップの企画・運営にも取り組んでいます。

小学校1年生から大人まで27名の参加者が待つ中に、怪しい姿の矢花さんが登場。その姿を見て、「ダンゴムシ!」「毛虫!」などの声。「みんなはなんていう生き物?」「みんながいるここはどこ?」「今日は、大昔の地球について感じてみて、作品を作ってみよう!」

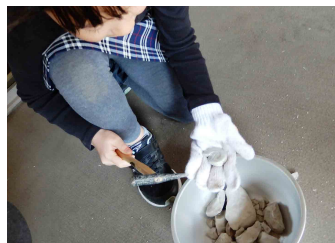
まずはベランダに出て化石掘り。土の塊をハンマーで叩くと中から、三葉虫やアンモナイトの他、松かさ、銅鏡、ゴキブリ?まさかのかっぱえびせん??の化石のようなものが!さらに部屋に戻ると本物の化石観察タイムです。様々な種類の三葉虫の化石(これは本物!)を虫眼鏡で観察すると、脚がたくさんだったり凸凹だったり、古代の自然の不思議な形が見えてきます。「掘り出したもの、持って帰れるの?」「いやいや、今日はみんな、オリジナルの三葉虫を作ってみよう!」

三葉虫の形は、スチレンボードを貼り重ねて作っていきます。これだけでも魅力的な形だけど、今日はそれで終わりではありません。この三葉虫の形を原型に、錫という金属で硬くて輝くオリジナル三葉虫に仕上げます。

出てきたものは、生け花などに使うオアシスです。スチレンボードで作った三葉虫の両面をオアシスに押し付けて凹みをつけます。そこに棒材を差し、脚や眼の突起になる凹みも増やしていきます。上下2つのオアシスを合体させて、金属を流し込むための湯道・湯口もつけて鑄型が完成!この中に、ドロドロに溶けた錫(融点232℃だそうです。)を流し込みます。

ここまで来たら、待つばかり。矢花さんの号令のもと、順々にオアシス鑄型を割っていきます。中からは、スチレンボードの頃から脚が生え眼が生えて、金属製になって、成長した姿の様々な三葉虫たち!早そうな、のんびりそうな、おしゃべりそうな、食いしんぼそうな…個性豊かな三葉虫が、地中から見つかる化石のように出現しました。金属を流し込む中で生じた思いがけない形や、金属になったことによる印象の変化など、作った本人も新しい発見があり、驚いて、もっとお気に入りになっていきます。

最後はみんなの三葉虫を1つの机に集めて鑑賞会。どれもとても魅力的です。それぞれの表現を楽しむとともに、美術が持つ素材の力や技術の力を感じることが出来るワークショップでした。



①土を割ると中から化石?が!



②本物の化石を観察してみよう。



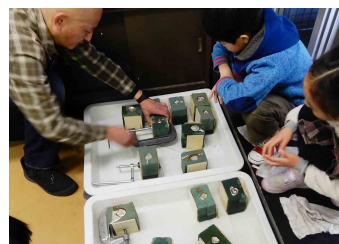
③オリジナル三葉虫、どんな風にしようかな。



④できた原型をオアシスに押し付けて、鑄型を作ります。



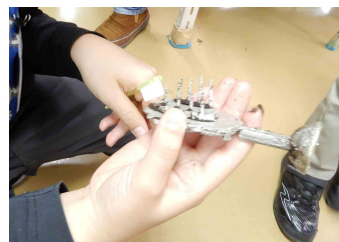
⑤どろどろの錫を流して…



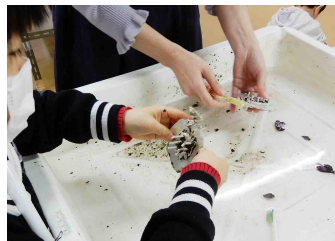
⑥早く固まらないかなあ。



⑦鑄型を割ると…



⑧硬く輝くぼくの三葉虫!



⑨きれいに磨きます。



⑩出来上がり!



⑪原型から、こんな風にできました。



⑫みんなで鑑賞会!

3月21日(土)のMOMASのとびらでも、SMFメンバーのみやうかさんが講師に登場します。SMFは様々な機会と様々な機関と連携して、アートとの出会い、アーティストとの出会いをつくっていきます。